

第三者評価結果入力シート（児童自立支援施設）

種別	児童自立支援施設
----	----------

①第三者評価機関名

福祉サービス評価センターさが

②評価調査者研修番号

No.SK2021266
No.SK2021267

③施設名等

名称：	佐賀県立虹の松原学園
施設長氏名：	山口 光史
定員：	22 名
所在地(都道府県)：	佐賀県
所在地(市町村以下)：	唐津市浜玉町浜崎2137
T E L：	0955-56-6654
U R L：	https://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji0031782/
【施設の概要】	
開設年月日	1905/3/31
経営法人・設置主体（法人名等）：	佐賀県
職員数 常勤職員：	18 名
職員数 非常勤職員：	6 名
有資格職員の名称（ア）	児童自立支援専門員
上記有資格職員の人数：	12 名
有資格職員の名称（イ）	児童支援員
上記有資格職員の人数：	2 名
有資格職員の名称（ウ）	心理士
上記有資格職員の人数：	1 名
有資格職員の名称（エ）	管理栄養士
上記有資格職員の人数：	1 名
有資格職員の名称（オ）	
上記有資格職員の人数：	名
有資格職員の名称（カ）	
上記有資格職員の人数：	名
施設設備の概要（ア）居室数：	15 室
施設設備の概要（イ）設備等：	体育館、食堂、プール(使用不可)
施設設備の概要（ウ）：	
施設設備の概要（エ）：	

④理念・基本方針

<p>虹の松原学園は、「児童を愛護し、心身ともに健やかに育成する」という児童福祉の理念を基本とし、こども家庭課・児童相談所など関係機関等との連携を密にし、「それぞれの児童の状況に応じて必要な指導を行い、その自立を支援すること」を目的とする。</p> <p>直接処遇職員は、児童とともに学び、働き、汗を流す「WITHの精神」を抛り所に、誠意・創意・熱意を持って自立を支援する。</p>

⑤施設の特徴的な取組

<p>「育てなおしの場」として基本的な生活習慣を身につけさせ、寮と分校が両輪となり「児童の成長、利益」を図り、自立の支援を行っている。</p> <p>地域との交流では、昭和32年から開催していた「学園・砂子区・保護者合同運動会」を今年度から「学園・砂子区合同スポーツ交流会」と名称・内容を変えて継続している。老人会との「しめ縄づくり」も実施している。また、ボランティア活動として、地区の清掃活動、鏡山「虹の階段」除草等を実施している。</p>

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2023/11/30	
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2024/3/22	
前回の受審時期（評価結果確定年度）	令和2年度（和暦）	

⑦総評

【特に評価の高い点】

- 支援の質の向上に向けて、職員会議や分校教職員と合同会議等で支援業務の実施状況の検討、年2回の自己評価、県子ども家庭課の事務監査、定期的な第三者評価の受審などの取組がなされており、取組むべき課題の把握、改善策の検討など運営会議や職員会議等で論議・検討され、情報の共有化を図り、改善策の推進に努められている。
- 子どもと職員の信頼関係構築を基本に、学園生活での守るべき約束ごとなどを踏まえた日常生活の中で、子どもたちが安心して生活することができるよう支援されている。
- 基本的生活習慣の確立を支援する中で、日々の整容、手洗いやうがい、清潔の保持、居室の清掃・整理等の自己管理ができるよう支援されている。また、感染症予防・対策マニュアル等に従い、毎日の検温や体調確認、分校と連携しての学期毎の内科・耳鼻咽喉科・歯科の定期検診の実施など健康管理に努められており、インフルエンザ等の予防接種、医療機関への通院、服薬管理等も適切になされている。
- 学園内での子ども間の暴力、いじめ等の防止については、虐待防止マニュアル、特別処遇ガイドライン等に沿って、子どもの人権保護を基本に、その防止、人権尊重の意識を高める取組がなされている。また、子供の行動上の問題については、対応マニュアルを基本に、職員及び教職員が連携し、職員会議や教職員との合同会議、ケース検討会議で論議されるとともに児童相談所等と連携して適切に対応されている。
- 職員と学園に併設された小・中学校の分校教職員が一体となり、合同会議等で論議しながら学校教育、学園での自主学習活動への支援がなされている。また、原籍校との定例会議等を学期毎に開催し連携を図られている。

【改善を求められる点】

- 自立支援マニュアル等に基づき、支援の基本方針、支援の方法等については、支援マニュアルの見直しを含めてケース会議や運営会議、合同会議等で論議し、児童相談所とも協議しながら見直しがなされている。一方、検証・見直しにあたって、子どもからの意見が積極的に反映されるような仕組みづくりはとっていないので、今後期待したい。
- ボランティアの受入れは、子どものプライバシーの保護の観点から困難な面があると配慮されているが、受け入れる際の基本姿勢、取り扱い、留意事項等の整理・検討をしておくことが望まれる。
- 子どもの発達段階に応じて基本的生活習慣の確立を促し、子ども達が生活上の課題について主体的に取り組むよう配慮した支援がなされている。今後は、子どもの心身の状況、特性に応じて、主体的に余暇活動や各種行事等への取組を促す支援がなされるよう期待したい。
- 毎日の生活日課にあわせた適時・適温の食事ができるように配慮されており、子どもの体調やアレルギー等への配慮も適切になされている。また、季節行事や誕生日を踏まえた行事食等にも配慮されている。今後は、子どもの発達段階などを踏まえながら食事の準備や配膳・片付け、調理の機会の確保・拡大等に取り組まれることを望みたい。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

全体的に当園の取組を高く評価していただいた。一方で、更なる改善が求められる部分があることも指摘を受けた。「ボランティア受入れに関する事項の検討・整備」「子どもの意見の反映」「食事・調理に関する自立支援」など指摘された点については真摯に受け止め、園内で共有・協議を行い、改善に向けた取組を行っていきたい。

⑨第三者評価結果（別紙）

（別紙）

第三者評価結果（児童自立支援施設）

共通評価基準（45項目） I 支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	第三者 評価結果
① 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等）に記載されている。 <input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。 <input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	a ○ ○ ○ ○ ○ ○
【コメント】 学園の使命や運営方針、目標等は、県のホームページに登載するとともに職員研修、職員会議、併設の小・中学校の分校教職員との合同会議等で周知が図られている。子どもや保護者等に対しては、パンフレットや施設見学、子ども用及び保護者用の資料を配布し、説明されている。	

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等適切に対応している。	第三者 評価結果
① 2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。 <input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設（法人）が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 定期的に支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	b ○ ○ ○
【コメント】 全国や九州地区の自立支援協議会の場などを通じて福祉事業の動向や経営環境・課題等の把握に努め、県担当部局と論議しながら、県の家庭的養護推進計画（5ヶ年計画）が策定されており、その内容については職員会議等で周知されているが、地域の各種福祉計画の策定動向や内容について分析までは行っていないので、今後の取組に期待したい。	
② 3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。 <input type="checkbox"/> 経営環境や支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。 <input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員（理事・監事等）間での共有がなされている。 <input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。 <input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	a ○ ○ ○ ○
【コメント】 運営会議や合同会議等で問題点の抽出、改善策の検討を行い、職員に周知し、改善に向けた取組が進められており、その後の進捗状況の確認等も同様に行われている。	

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		第三者 評価結果
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	○
【コメント】 県担当部局と学園との論議のもとで策定された県の家庭的養護推進計画(5ヶ年計画)において基本方針が明確にされ、見直しもなされている。		
②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○
【コメント】 県担当部局と協議しながら職員会議や合同会議等での論議を踏まえて毎年度の事業計画が定められている。		
(2) 事業計画が適切に策定されている。		
①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。	○
【コメント】 毎年度の事業計画は、職員会議や合同会議等で論議しながら策定、見直し実施状況の把握・評価が随時なされている。		
②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	a
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	○

【コメント】

事業計画等は、入園時や学期毎に開催の保護者会等で配布・説明がなされており、子どもたちにはその都度配布や説明がなされている。また、学園の年2回の広報誌が保護者や関係機関に配布されている。

4 支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	第三者 評価結果
① 8 支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a
<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく支援の質の向上に関する取組を実施している。	○
<input type="checkbox"/> 支援の内容について組織的に評価(C:Check)を行う体制が整備されている。	○
<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○
<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	○

【コメント】

職員会議や分校教職員と合同会議等で支援業務の実施状況の検討、年2回の自己評価、県子ども家庭課の事務監査、定期的な第三者評価の受審など支援の質の向上に向けた取組がなされている。

② 9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a
<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	○
<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	○
<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	○
<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	○

【コメント】

取り組むべき課題の把握、改善策の検討など運営会議や職員会議等で論議・検討され、情報の共有化を図り、改善策の推進に努められている。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。	第三者 評価結果
① 10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○
<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	○

【コメント】

県の設置条例・学園組織規則、学園処務規程等で職務分掌や学園長の決済権限等が定められ周知されるとともに、職員会議等でも周知・説明されている。また、学園の広報誌でも学園長の取組等についての意見表明が随時なされている。一方で施設長自身が自らの施設の経営・管理に関する方針や取組等について明確に提示したものはないので、今後の取組に期待したい。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	

【コメント】

施設長は、研修や関係機関等との各種会議等を通じて遵守すべき法令等の把握・理解に努められているが、職員への周知等の具体的な取組は行っていないので、今後に期待したい。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○

【コメント】

自立支援マニュアルを基に職員の取組を尊重しながら、職員会議や合同会議、ケース検討会議等で支援の質の向上に向けて取組まれているが、施設長自身、指導力がまだまだ不足しているとの考えなので、今後の取組に期待したい。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	

【コメント】

職員会議等で論議を重ねながら県担当部局との協議、情報交換等を密にされているが、欠員補充等を初めとする諸課題について、積極的な取組に期待したい。

職員の勤務時間や各種休暇、健康管理、福利厚生は、県の条例・規則に基づき行われており、ストレスチェックの実施、休暇取得の促進等の取組も推進されている。しかし、欠員解消が困難な現状に直面しており、その解消に向けて担当部局と一体となって取組まれることを望みたい。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	○
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	○

【コメント】

県の目標管理を含めた人事評価制度が実施されており、年2回の自己評価、個別面談の実施等スキルアップに向けた取組がなされている。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 現在実施している支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	○

【コメント】

職員採用時に必要な専門資格を取得していることが条件とされており、配属後は、学園職員としての自覚、勤務姿勢・心構え等を支援マニュアル等で明示し、周知するとともに研修・教育の計画的な実施に努められている。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	a
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	○

【コメント】

新任・中堅・役職等の階層別研修、職種別や専門職研修等など学園内外での研修・教育の確保に努められている。

(4) 実習生等の支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b
	<input type="checkbox"/> 実習生等の支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生等の支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【コメント】

実習生養成校と協議し、プログラムを定めて受け入れがなされているが、受入れに係る基本姿勢、事故防止、プライバシーの保護等の取り扱いを明確化することが望まれる。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。

第三者
評価結果

①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の実存意義や役割を明確にするように努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○

【コメント】

県立施設であり、県のホームページの中で学園の概要や役割、予算・決算、監査結果等が公表されている。学園では、年2回の広報誌を作成し、保護者や関係機関・団体に配布されている。また、地元地区とはスポーツ交流会や地域清掃活動等を通じて交流が図られている。今後は苦情・相談の内容やその対応についてもプライバシーの保護等に配慮しながら公開できるものについては公開していくことが望まれる。

② 22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。

a

	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○

【コメント】

県立施設として条例・規則等に基づき事務・会計経理は処理されており、県監査委員の監査、本庁のこども家庭課の事務監査が毎年度実施されている。また、外部の第三者評価も定期的に受けている。

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。		第三者 評価結果
①	23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの個別の状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	○
【コメント】 地元地域とのスポーツ交流会、地域清掃、注連縄づくり等の交流が定期的実施されている。一方、地域との関わり方については、特に施設として文書化しているものはないので、今後期待したい。		
②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	
【コメント】 ボランティアの受入れは、子どものプライバシーの保護の観点から困難な面があると配慮されているが、受け入れの際の基本姿勢、取扱い、留意事項等の整理・検討をしておくことが望まれる。		
(2) 関係機関との連携が確保されている。		
①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	○
【コメント】 児童相談所、分校、原籍校を初め、関係機関・団体との定期的及び随時の会議の場が設けられ、連携が図られている。一方、地域の関係機関・団体の共通の問題に対して解決に向けた取組は特に行っていないので、今後期待したい。		

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	c
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。 (社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設のもつ機能を地域へ還元したり、地域の関係機関・団体との連携等を通して、地域の具体的な福祉ニーズの把握に努めている。 (5種別共通) <input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業などを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	

【コメント】

地域の青少年健全育成協議会への職員の参加などはされているが、地域の福祉ニーズ把握等は行っていない。今後は、地域の困りごとを議論するための会議等を行い、主体的な取組に期待したい。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	c
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。 <input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。 <input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。 <input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。 <input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	

【コメント】

地域の福祉ニーズ等に基づく公益的な事業・活動は行っていない。施設においては、その有する機能をもって地域の福祉ニーズ等を解決・緩和する活動・事業の実施主体となること、あるいは地域住民の主体的な活動を促進・支援することなどの取組が求められていることから、今後の取組に期待したい。

Ⅲ 適切な支援の実施
1 子ども本位の支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。

第三者
評価結果

①	28 子どもを尊重した支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○

【コメント】

子どもの「最善の利益」を念頭に指導・支援に取り組む基本方針が明確にされ、ケース会議や児童のアセスメント会議で定期的に把握・論議されており、学期毎の児童アンケートの実施、年2回の職員の自己評価チェックリストの実施等もなされている。

②	29 子どものプライバシー保護に配慮した支援が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	○

【コメント】

個人情報保護条例及び学園の個人情報取扱基本方針に基づき、支援マニュアル等が定められ周知されるとともに、日々の支援業務が実施されている。

(2) 支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	○

【コメント】

入園前の施設見学時に保護者用及び児童用の説明資料を配布し、学園での生活について説明がなされ、入園時にも再度、苦情解決システム等学園での生活について説明されている。

②	31 支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う支援について子どもが可能な限り主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援の開始・過程における支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	○
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	○

【コメント】

児童相談所や学校等と連携し、支援の内容等について子どもや保護者に説明されており、自立支援計画の見直しの際にも子ども及び保護者の意見・要望の把握がなされ、支援計画の見直しの内容等について説明されている。

③	32 支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり支援の継続性に配慮した対応を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	○

【コメント】
措置変更や家庭復帰など退園に向けてのリーディングケアをケースに即して3ヶ月前には開始し、児童相談所や学校、保護者と協議しながら対応されており、退園後も、子どもや保護者が望めば家庭訪問や電話連絡、相談に応じることを説明・周知されているものの、内容等を記載した文書までは準備しておらず、今後に期待したい。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。	第三者 評価結果
① 33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b
<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○
<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	
<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	
<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	○

【コメント】
就寝前等の自由時間などに随時・個別に面談できる機会の確保に努められ、学期毎のアンケート・面談の実施、ご意見箱の設置など子どもたちが何時でも、自由に職員や教職員に相談できることを周知されている。また、子どもたちの自主的な取組活動として、学習・厚生・生活・体育の4つの支援部があり、分校と連携して支援されている。一方、子ども会等は設置しておらず、子どもが参画している検討会議等はないので今後の取組に期待したい。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。	
① 34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a
<input type="checkbox"/> 支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○
<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	○
<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	○
<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	○
<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○

【コメント】
苦情解決要綱を定め、第三者委員の委嘱を含む苦情解決の仕組みが整備され、プライバシーの保護にも配慮した取組がなされている。

② 35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	a
<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選ぶことをわかりやすく説明した文書を作成している。	○
<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	○

【コメント】
子どもたちが何時でも、自由に職員や教職員を初め児童相談所等の学園外の人にも相談できることを周知されるとともに、面談室などプライバシーの確保にも配慮した環境が整備され活用されている。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、支援の質の向上に関わる取組が行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

日々の支援活動の中での声掛け・面談、学期毎のアンケートの実施など意見要望等の把握に努められ、職員会議や教職員との合同会議での論議、第三者委員を含めた苦情解決に基づく対応等適切に対応されている。

(5) 安心・安全な支援の実施のための組織的な取組が行われている。

第三者
評価結果

①	37 安心・安全な支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

虐待防止、事故防止、無断外出・不審者対応、火災や自然災害への対応など安全・安心を確保するための組織的取組がなされ、ヒヤリ・ハット事例の収集・分析等もされている。今後は、これらの実施状況の確認、職員会議等での評価、職員研修など継続的な取組の強化が望まれる。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

嘱託医及び学校保健と協力し、感染症予防対策マニュアルに基づき、毎日の検温・体調の確認など健康観察チェック表への記録、職員会議や合同会議等での情報の共有など適切に対応されている。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○

【コメント】

災害時の対策マニュアルを定め、消防、警察等と連携して火災や自然災害、原子力防災の際の通報、避難等の訓練が定期的実施されるとともに、食料品、飲料水、衛生用品の備蓄・管理も適切になされている。また、子どもの安否確認、学園を設置している県職員の全庁的な安否確認システムの整備も図られている。

2 支援の質の確保

(1) 支援の標準的な実施方法が確立している。	第三者 評価結果	
①	40 支援について標準的な実施方法が文書化され支援が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	○

【コメント】

自立支援マニュアルが定められ、職員会議や教職員との合同会議で周知され、支援計画の作成・見直し等のケース会議等での実施状況の確認もなされている。新任職員に対しては、メンター職員による1年間のオンジョブトレーニング指導もなされている。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	○
	<input type="checkbox"/> 支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	○
<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。		

【コメント】

自立支援マニュアル等に基づき、支援の基本方針、支援の方法等については、支援マニュアルの見直しを含めてケース会議や運営会議、合同会議等で論議し、児童相談所とも協議しながら見直しがなされている。一方、検証・見直しにあたって、子どもからの意見が積極的に反映されるような仕組みづくりはとっていないので、今後に期待したい。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な支援の内容等が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な支援が行われている。	○

【コメント】

児童相談所、分校等関係機関と連携し、入園前・入園時・入園1ヶ月後・3ヶ月後と定期的に、また、必要時には随時に支援計画の作成、アセスメント評価、見直しがケース会議で論議検討されており、職員会議や合同会議で共通理解を深め、支援されている。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○

【コメント】

入園後も退園に至るまで3ヶ月毎に、又は、ケースに即して随時にアセスメント評価が行われ、支援計画の見直しがケース会議で論議されている。

(3) 支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○

【コメント】

支援の実施状況は、宿直日誌や毎朝の引継ぎ記録、ケース記録に記録され、職員は随時に閲覧・確認ができるとともに必要に応じ職員会議や合同会議で情報の共有化が図られている。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	○

【コメント】

県立施設として個人情報保護条例に基づき全庁的に定められた記録の取扱・管理システムに従い処理されており、職員研修での周知、年複数回の自己チェック、遵守状況の確認もなされている。

内容評価基準（25項目）

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた支援

(1) 子どもの権利擁護	第三者 評価結果	
①	A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。	○

【コメント】

学園の運営方針、重点目標等を踏まえ、虐待防止を初め自立支援マニュアルなどを整備し、それらに基づき職員の研修・教育の実施、運営会議、スタッフ会議等での周知・情報の共有とともに、定期的な自己評価の実施による振り返りの機会を設ける等共通理解に努めながら支援に取組まれている。

②	A2 子どもの行動制限等は、その最善の利益になる場合にのみ適切に実施している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設として、子どもの行動制限等についての規程やルール、マニュアル等を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの行動制限等は、規程やルール、マニュアル等に即して行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 規程やルール、マニュアル等を定期的に検証し、必要な場合には見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの行動制限等について、職員間で検証・検討する場を設ける等により理解の共通化やより良い対応に向けた取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの行動制限等を行った場合、必要に応じて児童相談所等に報告している。	○

【コメント】

子どもの問題行動等については、予防・発見・確認等の対応方法を自立支援マニュアルで明確にし、職員の共通理解を徹底するとともに、子どもの行動制限等の取扱いについては、特別処遇指針に沿って運営会議やケース検討会議等で論議され、職員一体となって対処、支援がなされている。

③	A3 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。	a
	<input type="checkbox"/> 定期的に全体場で権利についての理解を深めるように子どもたちに説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で起こる出来事を通じて、子どもの自身や他者の権利について正しい理解につながるよう努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 権利ノートやそれに代わる資料を使用して施設生活の中で守られる権利についてわかりやすく随時説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの状態に応じて、権利と責任の関係について理解できるように説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 年齢に配慮した説明を工夫している。(例えば高校生、中学生、小学生などに分けた説明の機会)	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員研修として、子どもの権利に関する学習機会を持っている。	○

【コメント】

権利ノートを活用して各人の権利と責任・義務、他者の尊重などについて随時説明するとともに学園で生活するうえで守らなければならない約束ごとの説明・周知に努められており、運営会議やスタッフ会議、分校教職員との合同会議で論議され、子どもの生活状況を見守りながらその都度注意・指導がなされている。

(2) 被措置児童等虐待の防止等

①	A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりについて、具体的な例を示し、職員に徹底している。	○
	<input type="checkbox"/> 会議等で取り上げる等により不適切なかかわりが行われていないことを確認している。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止の視点から、職員体制の見直し等の検討・取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示して、子どもに周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりがあった場合の対応方法等を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について対応マニュアルを整備し、研修会などで職員に周知・理解をはかっている。	○

【コメント】

不適切なかかわりの防止、早期発見については、自立支援マニュアル、虐待防止マニュアル等を定め、職員研修、職員会議等で周知するとともに年2回の自己評価を実施等により支援業務の振り返り、気づきの機会を設けられている。

(3) 子どもの主体性、自律性を尊重した日常生活

①	A5 子ども自身が自らの生活を主体的に考え、営むことができるよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 子ども自身が自分たちの生活全般について、自主的・主体的な取組ができるような活動を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもたちが施設の行事・余暇活動の企画・運営等にかかわることができる。	
	<input type="checkbox"/> 子どもが生活上の問題や課題について主体的に考え、その上で取組、実行、管理するといった内容を含んだ活動をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 生活全般について、日常的に話し合う機会を確保し、生活改善に向けての取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達段階に応じた生活習慣や生活技術の習得に向けた支援を行っている。	○

【コメント】

子どもの発達段階に応じて基本的生活習慣の確立を促し、子ども達が生活上の課題について主体的に取組むよう配慮した支援がなされている。今後は、子どもの心身の状況、特性に応じて、主体的に余暇活動や各種行事等への取組を促す支援がなされるよう期待したい。

(4) 支援の継続性とアフターケア

①	A6 子どもが安定した生活を送れるよう退所後も継続的な支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 退所した子どもの自立のための通所支援を積極的に実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的かつ必要に応じて訪問による支援を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 退所した子どもの来所を温かく受け入れ、自立を励まし、支援する取組を行っている。必要な場合は短期間の宿泊による支援を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 退所した子どもの自立のための通所による支援を実施するうえでの課題や条件整備について前向きに検討している。	
	<input type="checkbox"/> アフターケアは施設の業務であり、退所後何年たっても施設に相談できることを伝えている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況を把握し、退所後の記録を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて、児童相談所と協議の上、市町村の担当課と情報共有し、地域の関係機関、団体等と積極的な連携を図っている。	○

【コメント】

退所に際しては、数ヶ月前から児童相談所等の関係機関と連携して支援計画に基づき支援がなされている。退所後も、電話連絡や家庭訪問、保護者の同意を得ての通学先の学校との連絡等の支援・相談に努められている。なお、県立施設として設置条例の定めにより、通所や宿泊の支援は実施されていない。

A-2 支援の質の確保

(1) 支援の基本

第三者
評価結果

①	A7 子どもと職員の信頼関係を構築し、家庭的・福祉的アプローチを行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 職員は、子どもたちが日常生活の中で「大切にされる体験」を積み重ね、信頼関係や自己肯定感を取り戻すことができるように支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに安心・安全な生活を提供して不安の解消を図るとともに、子どもの良さ、強み、潜在的な可能性を見つけるなど、子どもに対する受容的・支持的かわりを心がけている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもたちがお互いにその人格を尊重し、お互いの長所を認め合い、助け合うことのできる良質な集団づくりを行うなど、集団生活の安定性を確保するための取組がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもと良好な関係が持てるよう、職員と子どもが個別的にふれあう時間を確保したり、施設全体の行事とは別に小集団での行事等を子どもと計画を立て実施するなどの工夫がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの集団生活の状況に応じて、臨機応変に生活の内容を変えて対応している。	○

【コメント】

学園生活での守るべき約束ごとなどを踏まえた日常生活の中で、子どもたちが安心して生活することができるよう支援されている。

②	A8 子どもの協調性を養い、社会的ルールを尊重する気持ちを育てている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設生活・社会生活の規範等守るべきルール、約束ごとを理解できるよう子どもに説明し、責任ある行動をとるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設のルール、約束ごとについては、話し合いの場が設定されており、必要に応じて変更している。また、子どもたちにわかりやすく具体的に文書等で示している。	
	<input type="checkbox"/> 普段から、職員が振る舞いや態度で模範を示している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域社会への参加等を通じて、社会的ルールを習得する機会を設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが個々のニーズに応じて主体的に余暇活動などを行い、それを通して、協調性や社会性を養うように支援している。	○

【コメント】

学園での生活、学校生活などを通じて、協調性や役割分担、社会生活面を含めた生活習慣の確立に向けて学校教育と連携して支援されている。学園生活での約束ごとについても、わかりやすい説明、表示に努められているものの、特に話し合いの場は設けられていないので、今後の取組に期待したい。

③	A9 自らの加害行為に向き合うための支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 加害行為を行った子どもが自分の行為を振り返り、きちんと向き合うための支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 振り返る際、行動上の問題が発生した要因等について自己理解を深め、その軌道修正をはかることができるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> この取組を通して成長できたという成長感や自己肯定感などを育成できるように支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 入所後の行動上の問題への対応について、職員間でケース会議を行い、検証を行っている。	○

【コメント】

不適応行動に対しては、ガイドラインに沿って指導に心掛けられるなど職員、分校の教職員が一体となって取組まれ、子ども自身の振り返り、見直しを促すよう支援されている。

(2) 食生活

①	A10 食事をおいしく楽しく食べられるよう工夫し、栄養管理にも十分な配慮を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが日々の食生活に必要な知識及び判断力を習得し、基本的な食習慣を身に着けることができるよう食育を推進し、団らんの場として明るく楽しい雰囲気の中で食事ができるよう工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの個人差(年齢、障害等)や子どもの体調、疾病、アレルギー等に配慮した食事を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 食に関する課題のある子どもへの具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 陶器の食器等を使用したり盛りつけやテーブルの飾りつけの工夫など、食事を美味しく食べられるように工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 定例的に子どもの嗜好や栄養摂取量を把握し、献立に反映させ、好き嫌いをなくす工夫や偏食支援については、無理が無いよう配慮し実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達段階や課題に応じて食事の準備、配膳、食後の後片付けなどの習慣や簡単な調理など基礎的な調理技術を習得できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 郷土料理、季節の料理、伝統行事の料理などに触れる機会をもち、食文化を継承できるようにしている。	○

【コメント】

毎日の生活日課にあわせた適時・適温の食事ができるよう配慮されており、子どもの体調やアレルギー等への配慮も適切になされている。また、季節行事や誕生日を踏まえた行事食等にも配慮されている。今後は、子どもの発達段階などを踏まえながら食事の準備や配膳・片付け、調理の機会の確保・拡大等に取組まれることを望みたい。

(3) 日常生活等の支援

①	A11 衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用し、衣習慣を習得できるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものが着用されるよう提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 年齢に応じて、TPOに合わせた服装ができるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 毎日取り替える下着や、汚れた時などに着替えることができる衣類が十分に確保されている。	○
	<input type="checkbox"/> 生活場面や活動場面に応じて着替えることのできる衣類を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣の習得を支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 破れやほつれなどの修繕が迅速に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 衣服は、ほつれ、ほころび、穴等、また汚れが無いものが着用されている。	○
	<input type="checkbox"/> ボタン付けや簡単な修繕ができるように支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 用途や体に応じた靴を提供し、清潔な靴を大切に使う習慣を身につけられるよう支援している。	○

【コメント】

季節や活動場面に応じた衣類の着用、下着の洗濯等の清潔の保持、整理・保管など子どもの発達段階に応じた支援が適切になされている。

②	A12 居室等施設全体が、子どもの居場所となるように、安全性、快適さ、あたたかさなどに配慮したものにしている。	a
	<input type="checkbox"/> 建物の内外装、設備、家具什器、庭の樹木、草花など、子どもを取り巻く住環境から、そこにくらす子どもが大切にされているというメッセージを感じられるようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが私物を収納できるよう、個々にロッカー、タンス等を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 日常的な清掃や大掃除を行い、軽度な修繕を迅速に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 居場所となるように家庭的な環境としてくつろげる空間などを確保するように努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて入浴やシャワーが利用できるようになっている。	○
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、子どもの状況に応じて配慮を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 疾病時などに静養できる個室や特別な部屋等を確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 着替えなどプライバシーを守れる環境を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> TV、DVD、音楽プレイヤー、楽器や本など子どもが楽しめる環境を整えている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもが安心して十分に睡眠がとれるように配慮している。	○	

【コメント】

居室は一人一部屋を基本とし、整理整頓、清掃等の清潔保持、プライバシーの確保など安全・安心に配慮した環境づくりがなされている。

③	A13 スポーツ活動や文化活動を通して心身の育成を支援している。	b
	<input type="checkbox"/> スポーツ活動(クラブ活動)は、身体能力を育てるだけでなく、忍耐力、責任感、協調性、ルール(規範)を身につけ、自己肯定感を醸成する機会として実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの興味、好みを可能な範囲で取り入れ、体制を整えて支援している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達段階に応じた内容が取り入れられ、子どもが達成感を得られやすい目標設定で支援している。	
	<input type="checkbox"/> ルールを尊重するとともに、子ども間の協力やチームワークなど、子どもの社会性の発達を支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自主性や自発性を持った活動を行い、最後までやり通せるように支援している。	○

【コメント】

グラウンド、体育館が整備され、男子は野球、女子はバドミントンの活動がなされているもの、個々人の興味・好みにまで配慮した活動分野の展開には至っていないので、今後の取組に期待したい。

(4) 健康管理

①	A14 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、異常がある場合は適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、服薬や薬歴のチェック等を行い、日頃から注意深く観察している。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症に関する対応マニュアル等を作成し、感染症や食中毒が発生し、又は、まん延しないように必要な措置を講じるよう努めている。また、あらかじめ関係機関の協力が得られるよう体制整備をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの心身の異常の訴えに適切な対処を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> インフルエンザの予防接種など接種できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 保健師や養護教諭(分校等)と連携をとっている。配置のない場合は配置に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的な健康チェックを実施するなど、子どもの健康状態・発達状態の把握や健康管理に努めている。	○

【コメント】

感染症予防・対策マニュアル等に従い、毎日の検温や体調確認、分校と連携しての学期毎の内科・耳鼻咽喉科・歯科の定期検診の実施など健康管理に努められている。インフルエンザ等の予防接種、医療機関への通院、服薬管理等も適切になされている。

②	A15 身体の健康（清潔、病気等）や安全について自己管理ができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 医療機関との連携による取組を通して、子ども自身が身体の健康や安全を自己管理できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 常に良好な健康状態を保持できるよう、睡眠、食事摂取、排泄等の状況を職員がきちんと把握している。	○
	<input type="checkbox"/> うがいや手洗いの習慣を養うように支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 洗面、整髪、ひげそり、歯磨き、つめ切り等身だしなみについて、発達に応じて自ら行えるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 寝具の日光消毒や衣類などを清潔に保つなど、健康管理ができるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 定例的に理美容をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達段階に応じて、危険物の取扱いや危険な物・場所・行為から身を守るための支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 軽いケガや疾病などの処置ができるような体制を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 基本的な疾病やケガに関する知識や対処方法を学ぶ機会を設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設内における危険箇所を把握し、職員、子どもに注意喚起が行われている。	○

【コメント】

基本的な生活習慣の確立を支援する中で、日々の整容、手洗いやうがい、清潔の保持、居室の清掃・整理等の自己管理ができるよう支援されている。

(5) 性に関する教育

①	A16 性に関する教育の機会を設けている。	a
	<input type="checkbox"/> 年齢、発達段階に応じて、性についての正しい知識、関心が持てるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	○
	<input type="checkbox"/> 年齢に応じた性教育のカリキュラムを用意し、正しい性知識を理解する機会を設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 児童自立支援施設に相応しい性教育についての職員の学習会を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招いて、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 日頃から職員の間で児童自立支援施設に相応しい性教育のあり方等について意見交換している。	○

【コメント】

日々の生活場面での注意喚起、指導に配慮されるとともに、心理士を配置し、児童相談所等と協議しながら生（性も含む）教育プログラムが実施されている。

(6) 行動上の問題に対する対応

①	A17 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないように徹底している。	a
	<input type="checkbox"/> 人権に対する子どもの意識を育むよう支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の密室・死角等の構造、職員の配置や勤務形態のあり方についても点検を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 課題を持った子ども、入所間もない子どもの場合は観察を密にし、個別支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が適切な対応ができるような体制になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども間の性的加害・被害の発生予防に努め、発生した場合においても適切に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員では暴力やいじめに対する対応が困難と判断した場合には、児童相談所等の協力を得ながら対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 暴力防止プログラムの活用など、子どもに対して暴力防止に向けた支援を展開している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設内での重要なルールとして「暴力防止」を掲げ、日頃から他者の権利を守ることの大切さを子どもと話し合う機会を持っている。	○
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成や部屋割りなどには、子ども同士の関係性に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 暴力やいじめについての対応マニュアルを作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの遊びにも職員が積極的に関与するなどして子ども同士の関係性の把握に努め、いじめなどの不適切な関係に対しては適時介入している。	○

【コメント】

虐待防止マニュアル、特別処遇ガイドライン等に沿って、子どもの人権保護を基本に、いじめや暴力の防止、人権尊重の意識を高める取組がなされている。

②	A18 子どもの行動上の問題に適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 行動上の問題のある子どもについて、子どもの特性等あらかじめ職員間で情報を共有化し、連携して対応できるようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 緊急事態に対する対応マニュアル等を作成し、組織的な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設が、子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 行動上の問題のある子どもについては、問題となる行動を観察・記録するとともに子ども本人からの訴えを傾聴し、発生の要因やメカニズムなどについて子どもと共に分析して、子どもに説明をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な支援技術を習得できるようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 他の子どもの安全、安心な生活を破壊し、施設の生活を成り立たせなくする暴力行為等に対し、施設全体で対応する仕組みを設け、周囲の子どもの安全を図る配慮をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 集積した子どもの行動上の問題に対して、多角的に検証して原因を分析したうえで適切に対応し、また、記録にとどめ、以後の対応に役立てている。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所、警察機関などの関係機関と日常的に連絡を取るなど、緊急事態への対応が円滑に進むよう対策を図る。	○
	<input type="checkbox"/> 関係機関を含めてケースカンファレンスを実施し、その対応策などについて検証している。	○
	<input type="checkbox"/> 影響を受けた子どもへの配慮ある支援を行っている。	○

【コメント】

子どもの行動上の問題については、対応マニュアルを基本に、職員及び教職員が連携し、職員会議や教職員との合同会議、ケース検討会議で論議されるとともに児童相談所等と連携して適切に対応されている。

(7) 心理的ケア

①	A19 必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 心理的なケアを必要とする子どもには、自立支援計画に基づきその解決に向けた心理的な支援プログラムが策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 心理的なケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応じて、有効なプログラムを柔軟に組み合わせたり修正したりして、心理的な支援プログラムを作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 心理的な支援プログラムにおいて個別・具体的方法が明示されており、その方法により心理的な支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、心理的な支援が行える体制ができています。	○
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて心理の専門家から直接的支援を受ける体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども個々に心理的ケアの担当者を決め、定期的に心理的な支援を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的かつ必要に応じて心理検査などを行い、ケースカンファレンスを通じて、ケア効果について評価し、見直しを行いながら、継続的に心理的な支援を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 良質な生活環境づくりを行い、施設での生活そのものが心理的ケアとなるような生活環境の提供に努めている。	○

【コメント】

自立支援計画に基づき、心理支援プログラム等による支援が、心理士を初め職員により取組まれており、児童相談所等と連携しながら継続的に実施されている。

(8) 学校教育、学習支援等

①	A20 施設と学校の緊密な連携のもと子どもに学校教育を保障している。	a
	(学校教育が実施されている場合) <input type="checkbox"/> 日々の子どもの状況の変化等に関する情報が、学校・施設間で確実に伝達できるシステムが確保されている。	○
	<input type="checkbox"/> 原籍校と連携を図り、子どもが不利益をこうむらないように、学習進路等の支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設と学校が個々の子どもに対する生活支援、学習支援及び進路支援等を相互に協力して実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校で生じた行動上の問題に対しては、学校と協力して対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校との協議に基づき、子どもの個々の学習計画を立て、それに応じて支援し、計画の見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設は子どもにとって学校で認められ、活躍できる居場所となるように支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 個別ケース会議には、原則として施設と学校の担当者が参加して検討している。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰を目指す場合は、退所後に通学する学校との連携が適切にとられている。	○
	(学校教育が実施されていない場合) <input type="checkbox"/> 原籍校と連携を図り、子どもが不利益を被らないように、学習・進路等の支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 学校教育を実施する際の課題等を検討するなど実施に向けての取組を真摯に進めている。	○
	<input type="checkbox"/> 学校教育が実施されていないが、教育内容等は子どもの最善の利益のために十分な配慮を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰を目指す場合は退所後に通学する学校との連携が適切にとられている。	○

【コメント】

職員と学園に併設された小・中学校の分校教職員が一体となり、合同会議等で論議しながら学校教育、学園での自主学習活動への支援がなされている。また、原籍校との定例会議等を学期毎に開催し連携が図られている。

②	A21 学習環境を整備し、個々の学力等に応じた学習支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出が無いよう支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 辞書・参考書等学習に必要な書籍を用意している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるように個別スペースや学習室を用意するなど、中学生、高校生、受験生のための環境づくりなどの配慮をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 年齢や理解力に応じて、自分で学習計画が立てられるなど、学習習慣が身につくよう支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 学習ボランティアや学習塾など社会資源を活用して学習支援をしている。	
	<input type="checkbox"/> 就業に結びつく資格取得や検定を受ける機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

分校教職員による放課後支援がなされるなど職員と教職員が一体となって学習支援がなされている。英語検定や漢字検定に向けた取組等子どもたちも学習支援部を設けて活動している。一方、学習ボランティア等社会資源は活用しておらず、今後の取組に期待したい。

③	A22 作業支援、職場実習や職場体験等の機会を通して自立に向けた支援に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業主等と密接に連携するなど、職場実習の効果を高めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 各種の資格取得を積極的に奨励している。	
	<input type="checkbox"/> 職場実習に対する施設としての取組について、規定を設けるなどして、職員が共通認識をもって、子どもの自立支援に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもが、作物などの育成過程を通して、協働して作業課題を達成する喜びを体験し、勤労意欲の向上、心身の鍛錬を図れるように支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 仲間との共同作業などを通して、人間的ふれあいや生命の尊厳及び相互理解を深め、社会性や協調性などを培うように支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 働く体験を積み重ねることで、根気よく最後まで取り組む姿勢など社会人として自立するために必要な態度や行動を育てている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 自然の環境の中での作業体験を通して、情操の育成が図られるように支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 作業カリキュラムが策定されている。	
	<input type="checkbox"/> ソーシャルスキルトレーニングなどを積極的に実施している。	

【コメント】

学園での在籍は、最長で義務教育修了時までのため進学を中心とした支援となっているが、分校の協力の下、学校教育の中で職場見学や作業実習の機会が設けられ、学園でも花や野菜づくり等の作業機会が設けられている。今後は、ソーシャルスキルトレーニングの機会等の充実が望まれる。

④	A23 進路を自己決定できるよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、必要な資料を収集、多様な選択肢と判断材料を示して子どもと十分に話し合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、保護者等、学校、児童相談所の意見を十分聞くなど連携している。	○
	<input type="checkbox"/> 早い時期から進路について自己決定ができるような相談、支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 奨学金など進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報等も提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 中卒児・高校中退児に対して、施設入所を継続し、子どものニーズに応じた社会経験を積めるように配慮し、進路支援をしている。	
	<input type="checkbox"/> 高校卒業予定の子どもが入所している場合、進路支援をしている。	
	<input type="checkbox"/> 進路支援カリキュラムが策定されている。	
	<input type="checkbox"/> 退所後に不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用し、進学あるいは就職した子どもや継続して自立支援を必要とする子どもに対する支援を継続している。	

【コメント】

中学校卒業後の進路や目標については、本人の希望を基に、保護者や教職員、児童相談所等と話し合い、相談・支援に努められているが、中学校卒業した子どもの在園は、実施されていないので、今後の取組に期待したい。

(9) 親子関係の再構築支援等

①	A24 親子関係再構築等のため、家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、アセスメントに基づく家族支援の計画が記載されている。	○
	<input type="checkbox"/> 家族支援の計画は、保護者や児童相談所などの関係機関等と協議して策定され、必要に応じて見直している。	○
	<input type="checkbox"/> 親子の関係改善を目的に、日常生活の様子や学校、地域、施設等の予定や情報を家族に随時知らせたり、施設行事などへの参加を積極的に促し、その際、受容的なかわりを心掛けて、信頼関係を築くようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅は、子どもと保護者等との協議によって目標を立て、必要に応じて児童相談所とも連携して実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等の安定した関係に配慮し、保護者等の養育力の向上に資するよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 家族の抱える課題に対して、児童相談所と連携しながら、または独自に、保護者等と定期的に面接やカウンセリングあるいは家族支援プログラムを行うなど、具体的な支援を行っている。	○

【コメント】

自立支援計画に基づき、面会や帰省等については約束ごとの徹底、保護者の送迎・同行の下に機会が設けられるとともにアフターケア計画等に基づき児童相談所と連携して取組まれている。

(10) 通所による支援

①	A25 地域の子どもに対する通所による支援を行っている。	c
	<input type="checkbox"/> 通所支援に必要な予算・人員等が確保されている(又は、予算・人員等の特別な確保はないが、既存枠内で対応できている)。	
	<input type="checkbox"/> 通所支援専用の施設設備が整備されている(又は、既存施設の有効活用により対応している)。	
	<input type="checkbox"/> 通所支援が、施設の「事業計画」に規定され、組織的な取組が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 通所支援により、地域の子どもに対して医療的・心理的ケア等の支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて訪問による支援を実施している。	

【コメント】

通所による支援は行っていない。